

## 第67回 AIで避難ができるのか？

IT生

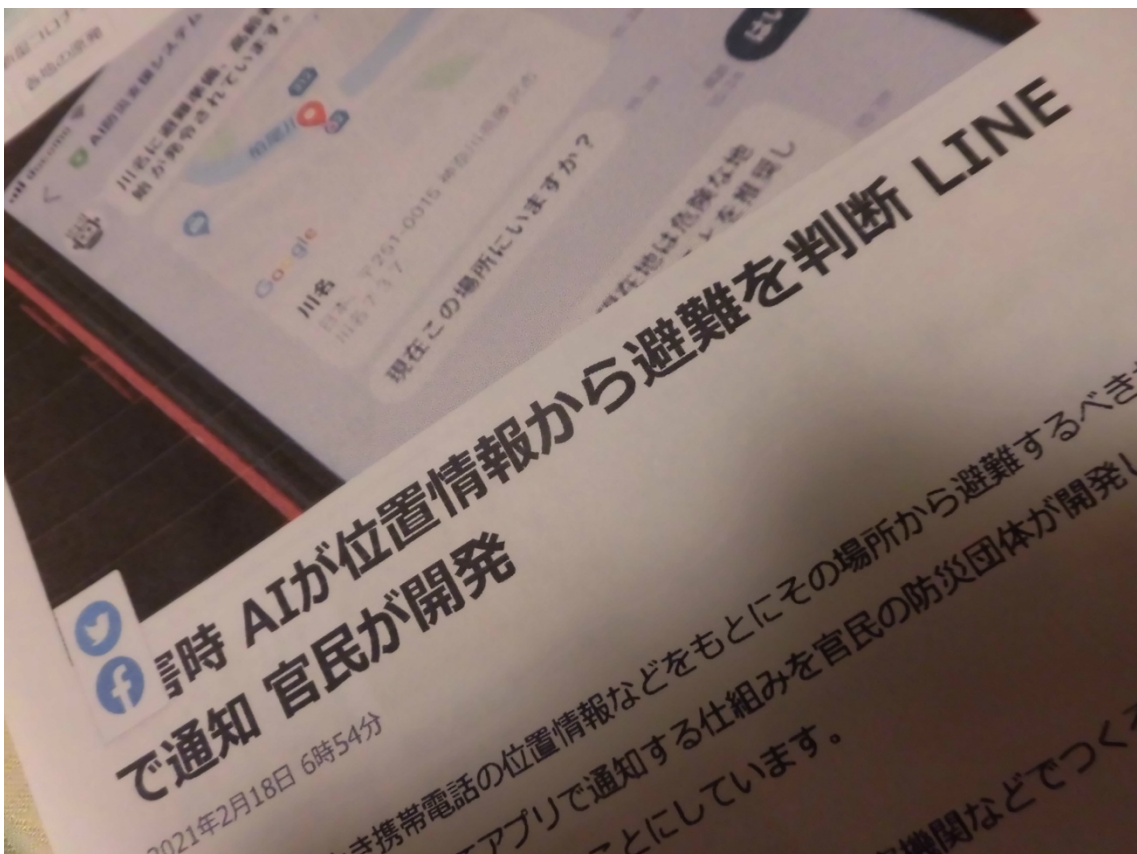
またも、目を疑う、ニュースをみた。

Lineが避難を指南するのだという。

携帯電話の位置情報をもとに、電話の所持者に「最適な」避難場所・経路を指南するのだという。

スパコン「富岳」の開発者も口にしたが、どうも、コンピューター万能論者たちは、災害のたびに問題となる逃げ遅れの解消に加担したいという欲求にかられるのだろう。

しかしながら、いざというときの判断力には、カンも含めて人間の脳に勝るものはないのだという真理をまったく無視しているといわれてもしかたない。



Lineが避難を指南するというニュース。疑いすらしない扱いが恐ろしい

医療のAI診断でも誤診はあり、たとえ一見妥当な診断がAIからでたとしても最終的には、人間の医師が判断をするのだ。ただし、医療のAI診断の場合は、人間が修正できる時間がある。しかし、災害時の避難途上では、そのような専門家が介在する余地も、時間もない。

だいたい、非常ベルがなったとしても、煙の性質など火災の基本知識や、非常口の場所、その場所の置かれている状況（そこに集まっている人の規模や密度など）これらを瞬時に判断できなければ、安全な避難はできない。

だいたい、火災や津波、洪水が迫ろうとしているときに、スマホを握りしめ、目を凝らして情報をまつのだろうか。

避難には近道や特効薬など存在しないことを認識すべきだろう。

まもなく10年を迎える東日本大震災で、逃げおおせた釜石の子供たちが学んだ避難三原則は、想定を信じるな・状況下で最善をつくせ・率先避難者たれ、である。

つまり、避難とは、事前の学びと、いざというときには自分以外の人間の存在が奏功するものであることを示している。

こうした現実の世界にのみ働く人間の脳は、バーチャルなAIの世界とは真逆なのだ。

きっと、AI化した人間には理解不能なのだろう。

（令和3年2月）